

「残酷な殺人、残忍な殺害、野獣を殺す」：招遠市で2014年に発生したマクドナルドの「カルト殺人」に関する調査

Massimo Introvigne
CESNUR (Center for Studies on New Religions)
maxintrovigne@gmail.com

2017年、新宗教研究センター代表、マッシモ・イントロヴィーニャ(Massimo Introvigne)は中国の河南省で6月に開催された対話集會に招かれ、続いて9月には香港で開かれた會議にも招待された。そこには中国の法執行官、中国の公式反邪教協會の指導者、中国や欧米の研究者が参加していた。対話は「邪教」(翻訳が困難な用語で、「カルト」と正確に同じ意味ではない)に関するもので、中国で邪教とされる団体、「全能神教會(別名:東方閃電)」も議題に上った。全能神教會は中国以外の地域でも物議を醸しており、特に2014年に招遠市のマクドナルドの店内で女性客が容赦なく殴打されて死亡した恐ろしい犯罪を遂行したとして非難されている。イントロヴィーニャはこの殺人に関する多くの文献を閲覧し、全能神教會に敵対している中国の官吏と研究者、そして韓国と米国に逃亡した同教會の信者の話を聞いた。それに基づき、マクドナルド殺人事件に関する世界初の学術的調査を実施し、その予備的な結論を本研究ノートにまとめている。

要旨: 2014年5月28日、中国で典型的な「カルト殺人」として知られるようになった事件が招遠市で発生した。6人の「伝道師」が説教のためにマクドナルドの店内に入り、電話番号を教えるのを拒否した客が殺害されたのである。中国当局はこの犯罪の責任は、既に抑圧キャンペーンの対象とされていた全能神教會(別名:東方閃電)にあるとした。中国の公的な情報源から発行された文献を含めて、事件に関して入手できる文献を調査したところ、異なる結論を導き出した。暗殺者は小さな宗教運動の信者らで、「全能神」という名前は、両者の2人の女性指導者を指しはしたが、この組織は全能神教會の何らかの結びつきがあるわけでもなかった。本稿では、小さな宗教運動が、どのようにその指導者を神格化し、そこから暴力と殺人へとつながったかについて論じる。

キーワード: 招遠市のマクドナルドの殺人、全能神教會、東方閃電、邪教、中国の新宗教運動、

序論

2014年5月28日、中国山東省招遠市のマクドナルドの店内で、新宗教運動の分野で最も恐ろしい殺人事件の1つが発生した。6人の「伝道師」が入店して説教を行い、追って連絡するために客たちに電話番号を渡すように求めた。近くの衣料品店

で働く販売員の呉碩艶(ウー・シュオヤン)(1977~2014)は、電話番号を教えることを拒否した。彼女は「悪霊」とされ、モップの柄で殴打されて死亡した(Dunn 2015b: 204)。

殺害当時、中国政府は 1991 年に中国で生まれた全能神教会(別名:東方閃電)を撲滅するキャンペーンを行っていた。その「祭司」は趙維山(1951 年生まれ)であり、イエス・キリストが全能神として地上に再臨したと説く。全能神教会では全能神とされる女性の名前も生い立ちの詳細にも言及しておらず、外部情報源の情報には誤りがある可能性を警告している。しかし、多くの学者は中国人女性の楊向彬(ヤン・シャンビン)(1973 年生まれ)を全能神が受肉した存在であると考え(る)(Dunn 2015a, 2015b)。様々な理由から、全能神教会は法輪功と共に、中国当局から典型的な邪教とみなされるようになる(Dunn 2015b: 21-23)。邪教はしばしば「邪悪なカルト」と翻訳されるが、これは明朝中期から中国で「異端の教義」または「犯罪的宗教セクト」の意味で使われていた(ter Haar 1992)。

中国の警察とメディアはすぐに殺人の責任を全能神教会に被せた。この間違っただけの非難は、現在でも中国国外のメディアによって日常的に繰り返されている。告発の証拠として、中国メディアは、殺人の翌日に警察が主犯格の張立冬(ジャン・リドン)(1959~2015)の自宅で全能神教会の資料を発見したと主張したことを挙げる(Chen 2014)。その際、『小羊が開いた巻物』も発見されたという(Phoenix Satellite TV 2014)。さらに 2 日後、張立冬とのインタビューが国営放送の中国中央電視台(CCTV)で放映された。張は自分が失業中で、呉は「悪霊」であったので殺したと述べた。信仰する宗教について尋ねられると、張は「全能神です」と答えた(CCTV 2014)。

全能神教会は、見つかった書籍は、おそらく警察自身が張の家に置いたものであろうと主張するが、この点は問題の本質ではないように見える。中国当局の抑圧により、全能神教会は秘密裏に活動せざるをえないため、統計を取ることは不可能であるが、研究者と政府は信者が数十万おり、何百万という書籍が配布されていると口をそろえる。中には、「駅構内等に残され、通行人が見つけれられるようにしたものもあった」という。(Dunn 2015b: 151)。つまり、この書籍を持っているという事実だけでは、同教会の信者であるとは断定できないのである。

マクドナルドの殺人犯が「悪霊」を表すのに使用した中国語が 4 つある。それは、「悪霊」、「邪霊」、「悪魔」、「魔鬼」である。殺人犯がそれらの言葉を同義語として使用していたのは明らかだ。少なくともインタビューや裁判における宣誓から考えて、これらの「悪霊」のカテゴリーを使い分けていたかは定かではない。しかるに、全能神教会は「悪霊」の存在を判断するのに非常に特殊な規則をもつが、しばしば用いている「邪霊」という用語は、全能神教会の数多ある文献の中に一度たりとも出てこない。殺害された呉碩艶は 6 人の「伝道師」たちに電話番号を教えることを拒否したために「

悪霊」(または「邪霊」)とされ、殺害すべきとされたことは、全能神教会の神学とも実践とももちろん無関係であった。

マクドナルドの殺人事件を犯した団体は、2014年8月21日、山東省の煙台市中級人民法院に出廷した。中国の政府系メディアは、被告の声明と自白をかなり広範囲に報じた。そこから、オーストラリアの研究者エミリー・ダン(Emily Dunn)の結論が裏付けられた。それは、マクドナルドに入店して犯罪を行った者は、殺人を犯した時、誰一人として全能神教会の信者ではなかった、という説である(Dunn 2015b)。その団体に30人以上の信者がいることはなかったが、この犯罪とつながりがあった。ダン(Dunn 2015a)は、殺害時には全能神教会と関係していなかった暗殺者も、かつてはその信者であったと考えているが、私の結論は異なっており、彼らが同教会の信者であったことは一度たりともなかったと考える。

非常に小さな宗教運動にまつわる物語

団体内で最も影響力を持っていたのは、河北省の石家荘市の張一家と、1975年3月8日に山東省煙台市で生まれた若い女性、呂迎春(リュウ・インチュン)であった。張立冬(ジャン・リドン)は石家荘で1959年10月8日に生まれた男性である。彼は陳秀娟(チェン・シウジュエン)と結婚し、3人の子供をもうけた。1984年10月24日生まれの張帆(ジャン・ファン)(1984~2015)と1996年3月1日生まれの張航(ジャン・ハン)という2人の娘と、2001年9月12日に生まれの張舵(ジャン・ドウオ)という息子である(Wang 2014)。

陳秀娟は、後に張巧聯(ジャン・チャオリエン)を愛人とした夫と口論することになるが、陳も団体の宗教的な魅力の創出に関わりがあった人物である。彼女は、1989年に山西省で季三保(ジ・サンバオ)(1940~1997)が創設した新宗教運動の1つ、三贖基督(別名:門徒会)の一員であった。真イエス教会として知られるペンテコステ派教会の説教者であった季は、自分自身を「神の化身」(神的替身)と称し、三贖基督の中心にあると説いた(Dunn 2015a: 35-39)。

呂迎春は裁判でこう述べた。

「私は、自分が「神自身」であると知って育ってきました。1998年、私は「全能神」に関する本の中で「長子」という言葉を読みました。私は、自分がその「長子」だと確信しました。(中略)最後に、私は自分が「神自身」であることを知ったのです」(The Beijing News 2014)。

「長子」は、イエス・キリストの新約聖書に登場する肩書である(ヘブライ人への手紙 1:6、ヨハネの黙示録 1:5 参照)。言及されている本は全能神教会のものかどうか

は不明だが、今日、同教会には信者が神と認める一人を除き、地球上に神は存在しないとしている。一方で、2000 年代初頭から、呂迎春は招遠市で研究グループを率い、インターネットを通じて自分はメシアであるという主張を広めてきた。

張帆はまた、2007 年に「全能神」に関する本を玄関前で拾い上げ、その教えに説得力があると感じた(The Beijing News 2014)。彼女はインタビュー中、その本のタイトルは『神の隠れた働き』(神隠秘的做功)だったと語った。彼女がタイトルを誤ったのでなければ、それは恐らく全能神教会が出版した『神が行った隠れた働き』(神隠秘的作工)の海賊版か模造版である。張帆は全能神教会に関心をもつようになったが、組織には連絡できなかった。「全能神教会と接触したことはありません。全能神教会は非常に秘密主義で、見つけられなかったからです」と後で述べている(Phoenix Satellite TV 2014)。

張帆は、インターネットで呂迎春のフォローを始めたときに改宗し、批判に対する呂迎春の回答が「見事だ」と感じた(The Beijing News 2014)。それ以来、張帆は呂の説教を聞くため、招遠を訪れるようになった。2009 年夏、呂の熱烈な支持者になっていた彼女は、母親の陳秀娟を改宗させ、母親を通じて父の張立冬、妹の張航、8 歳の弟の張舵を含む家族全員を改宗させた。じきに、張一家は招遠市に引っ越し、2 階建ての建物を借りた。1 つの階では家業の繊維業を営み、別の階は宗教の集会所として使われた。

招遠市に引っ越す前、張帆は『七雷発声』という本を読んだ。これは彼女が北京広播学院(2004 年に中国伝媒大学に改名)に入学した 2002 年より後で、彼女は同学院を 2008 年に卒業している。招遠市で張帆は、おそらく呂迎春も読んだであろうこの本の著者が、内モンゴル自治区包頭市の夫婦、リ・ヨウワンとファン・ビンが書いたものである。当時、リとファンは刑務所に収監されていたが、刑務所からの釈放された後、招遠で張一家と一緒に過ごせるように、張帆は母親から 5 万元を借りて包頭市に送金した。リとファンは[ヨハネの黙示録 11:3-12 の]「2 人の証人」と呼ばれ、呂迎春と張帆は当時 20~30 人の信者で構成されていたグループで「長子」と呼ばれていた(Xiao and Zhang 2014)。またファン・ロンフェンがグループ内部の輪に加わり、呂迎春は 2010 年に張帆と共に暮らし始めた。

ヨハネの黙示録 10:1-7 にある「七つの雷」への言及から、このグループが全能神教会と関係していることを示しているとする向きもあるが、全能神教会のみがキリスト教のヨハネの黙示録とそのシンボルに関心を持つ団体でないことは明らかである。『七雷発声』やその著者を言及している教会の参考文献やウェブサイトはないため、彼らは別の独立した団体を運営していたと結論付けるほうが賢明であるように思われる。

しかし、2011 年、張帆はリ・ヨウワンを「悪霊」と呼び、リ・ヨウワンと妻は招遠の団体を脱退し、山東省東營市に引っ越した。ファン・ロンフェンも「悪霊」とみなされ、グル

ープから追放された(Xiao and Zhang 2014)。リとファンの夫妻を排除したことで、呂迎春と張帆は、自らがヨハネの黙示録に出てくる「2人の証人」であり、神であることを徐々に明らかにしていった(完全に明らかになったのは、2014年5月になってからのようだ)。

結局、中国における他の新宗教と同じように、グループの中心的な信念は呂迎春と張帆が対となってメシア的な役割を果たすところにある。ヨハネの黙示録を頻繁に参照しているところから、善と悪が最終決戦を繰り広げる世界の終末の接近を暗黙の了解としているが、呂迎春と張帆という2人の若い女性、つまり「同じ魂を共有する二つの肉体」(The Beijing News, 2014)が担う神としての役割を受け入れる人々は、生きながらえることができるとする。呂迎春は、「私たちが今、終わりの日に生きているという事実は、人が状況の分からないまま無意識のうちに「サタン」の手先になってしまい、神の側には立っていないこと」から確認でき、「そうなってしまうと、2つの靈魂の狭間で戦ううち、「魔鬼」のさらに辛辣な攻撃にさらされることになるだろう」とする(The Beijing News 2014)。

メシア的な役割を務められるのは、この2人に限られる。これは、グループが呂迎春と張帆を「全能神」として信じる教義と、全能神教会の教義と異なる点であり、かつ実際に相容れない点でもある。裁判で、呂迎春は明確に以下のように説明した。

「国が趙維山の偽の「全能神教会」を邪教と呼んでいることに呼応して、私たちはそれを「悪霊」と呼びます。「長子」である張帆と私だけが、本当の「全能神教会」を代表することができます。張帆と私こそが、本物の「全能神」の唯一の代弁者なのです。政府は趙維山が信じる「全能神」を糾弾していますが、私たちが言う「全能神」ではありません。あちらは虚偽の「全能神」で、私たちこそが本物の「全能神」なのです」(The Beijing News 2014)。

張帆はそれに加えて、以下のように述べた。

「今まで、私の父、弟、妹、呂迎春、張巧聯と私だけが本当の「全能神」の信者です。2010年、私は「全能神」の「長子」でした。今年5月、私は悪霊を打ち払う権限を天から授かり、「神自身」となったのです。「神自身」とは、いわば私は実質的に神だということです。呂迎春も、実質的に神です」(The Beijing News 2014)。

キリスト教徒の中で全能神教会に批判的な者の中には、全能神教会に中国の裁判所が敵意を抱いていることから、裁判中に禁止対象の趙維山の団体との関係を希薄に見せるほうが被告の利益に適うと考える人もいる。しかし、(恐らくそうではないだろうが、)被告らが防衛戦略を意識的に採用したのなら、「邪悪な」全能神教会から操作されていたため、犯した行為の全責任を負うことはないと主張しうる。そうすることで、最も重大な犯罪である殺人で死刑にされることを回避する方が、彼らに有利に働いただろう。

この団体は中国最大の新宗教、全能神教会の 1 つの支部ではなく、在籍した信者数も 30 人を超えず、最終的には 6 人となった非常に小さな運動であった。元々、呂迎春と張帆はグループの「羊飼い」としてグループを導いていた。しかし、グループが終焉に向かう中、張帆は「全能神の組織において、呂迎春と私は最高の地位を持っています。私たちは「神自身」なのです。私の父、妹、弟、張巧聯は全員、「祭司長」です」と証言した(The Beijing News 2014)。

2 つの要素は注目に値する。第一に、祭司になるのに、呂迎春と張帆を全能神として崇めること以外に何も資格は必要ないという点だ。張舵のような 13 歳の男子でさえ祭司と見なされた。第二に、伝統的な中国の家族構造とは違い、小さな新宗教運動を創設した張一家には、年齢によって決まる家父長的な権威や階級がなかった。父の張立冬は、娘の張帆からの命令に疑念をもたずに従うことになっていた。神の御達しは、伝統的な秩序を完全に転換させていた。

犯罪前夜:ある犬にまつわる悲惨な出来事

2014 年 5 月 20 日頃、2 人の「神々」は、張帆の母親である陳秀娟を「悪霊」の 1 人として認定し、彼女を団体と家族の家から追放し、張帆の父である張立冬に対して、陳秀娟との婚姻生活は終わったと伝え、張立冬は「元恋人の張巧聯を呼び寄せて一緒に生活することができる」と伝えた。ここに、「2 人は[陳秀娟に]代わって夫と妻になった。呂迎春は各人に新しい霊的な名前を授け[張立冬はアダム、張巧聯はイヴと呼ばれるようになった」(The Beijing News 2014)。それまでは特に宗教的ではなかった張巧聯は、呂迎春と張帆を全能神として崇めることを宣言し、団体の信者として受け入れられた。

「悪霊」を識別し、非難し、追放することが、団体にとってますます重要になってきていた。後者の慣習は中国の宗教の伝統に根ざしているが、呂迎春と張帆は団体の信者を「悪霊」に指定する権限を得た。悪霊とされた者は単に立ち去るように求められるだけではない。度重なる暴力に特徴づけられる儀式があった。

特にぞっとさせる出来事は、張帆の母親である陳秀娟を張一家、そして団体から追放したことである。この動きは、2 人の「神々」の忠実な支持者である張帆の父親、張立冬に、妻ではなく愛人である張巧聯と共に生きることを許してあげたいという想いから動機付けられたとあからさまに結論付けることができよう。陳秀娟の追放劇は、メロドラマに仕立て上げられたのだ。

事件前、呂迎春と張帆は、「間もなく地球を去り」、天国に戻るだろうとの言葉を発した。この期待が高まるにつれて、「母親は「邪霊の王」である」という張帆の説得も勢いづいた。「悪霊」が私たちに働きかけています。母に会ったとき、私は母を殺めてしまうでしょう。母が「悪霊」であることを知って行き場のない怒りがこみ上げ、母なんて

無残に死んでしまえばいいのに、と望みました」。張帆は母親に対して実際に身体的な暴力を振るったわけではないが、精神的な圧迫はかなり行った。「残酷な殺人、残忍な殺害、野獣を殺す」といった言葉が家の壁に書かれていましたが、その言葉は私が書いたものです」と張帆は回想している(The Beijing News 2014)。母親が動物を虐殺していたと 2 人は主張するが、壁にそう書くことは、来るべき暴力の予兆でもあった。

マクドナルドでの殺人事件のちょうど 1 日前、暴力が現実化した。最初に犠牲になったのは、ルーイという家族のペットだ。ルーイは「陳秀娟の身代わり」と見られた。張帆は次のように述べている。

話をしているとき、呂迎春はルーイが自分に向かってニヤリと笑っていることに気付いた。呂迎春にはルーイが権力と攻撃性を誇示しているように思えた。陳秀娟が育てたルーイの目の中に、彼女の姿を確認した呂迎春は、ルーイが陳秀娟に代わる「悪魔」の道具だと思うようになった。(中略) 呂迎春はルーイを指差して、「陳秀娟、見つけたわよ！」と叫んだ。(中略)「悪魔」を前にしたら、それをすぐに捨てるか殺すことになっていた(Xiao and Zhang 2014)。

ペットの犬に関するこの逸話は些細なことのように思えるが、1 日がかりの裁判中、張立冬の発言のかなりの部分を占めた。裁判では、張立冬は死刑を宣告される可能性をひしひしと感じていた身だ。

張帆はルーイがコーヒーテーブルの下にいるのを見つけ、尻尾をもって外へ掴みだした。ドアの外から階段の下の床に投げ捨てられた、ルーイは走れなくなり、びっこを引いていた。張帆は骨が折れるまでルーイをモップで殴りつけた。ルーイはしばらく滅多打ちにされ、動かなくなっていたが、張帆は「尻尾はまだ動いているわね」と言い、「足を大きく踏み出し、犬の頭を踏みつけました。しばらくすると大量の血が流れてきたので、犬は死んだのだらうと思いました。犬の尻尾をつかんで、建物の外まで引きずっていき、そこにあったゴミ箱に捨てました」(The Beijing News 2014)。

張帆には、犬を惨殺することは宗教的に重要で、自身の神としての地位を確認するものであるように感じた。

「特に犬を惨殺した 26 日の夜、私は自分と呂迎春が「神自身」だと強く確信しました。その晩以降、天からより大きな権威を授かったと感じ、強い興奮を覚えました。10 歳の時に自分は神だと感じたことがありましたが、それは一瞬で、その後すっかり忘れ去っていた感覚でした」(The Beijing News 2014)。

マクドナルド殺人事件

マクドナルド殺人事件の 24 時間前に起こった犬の惨殺が、不幸な客、呉碩艶殺害の呼び水になったことは深く考えさせられる点である。張立冬が殺人事件の血生臭

い詳細を語ったが、裁判での呂迎春の供述をここで引用する価値はある。それにより、集団が犯罪に精神的な意義を見出した点に焦点を当てることができる。

「張航が女性に電話番号を教えろと詰め寄ったのですが、女性は断りました。このことを意識したとき、私たちは「邪霊」に襲われて生気を吸いとられていることに気づき、弱く無力になる感覚に襲われました。私たち 2 人は彼女がその「邪霊」であると考え、彼女を罵りました。彼女は耳を傾けなかつただけでなく、さらに強く攻撃してきました。私たちは彼女の周りの空気が、背中とお腹で渦巻いているのを見ました。彼女のお腹が膨らんだことで、私たちの霊は彼女の吸引力と攻撃が勢いを増していると感じ取ったのです。私の体からは力がますますなくなっていきました。戦いの中で、張帆が少しずつ落ちていくのが見えました。まるで彼女を下に引っ張る「邪霊」がいたかのようでした。張帆は力の限り叫んでいましたが、口から声が出ませんでした。聞こえたのは非常にか細い叫び声だけでした。私が張帆を引き上げると、[妹の]張航に向かって、「なぜあなたは信じなかつたの？ なぜあなたは動かなかつたの」と叫びました。張帆がその女性の頭と肩を踏みついていたので、私もその女性の腰やお尻を踏みつきました。「悪魔」が私たちに攻撃を仕掛けている間、張帆と私は徐々にその女性は死ななければならないことに気づき始めたのです。そうしなければ、悪魔は皆を食い荒らすだろうと思いました。そのため、張立冬と他のメンバーに、彼女が息を止めるまで殴打し続けるように言いました。さもないと、彼女が息をしている限り、たとえ彼女の体が弱り動くことができなくなったとしても、「悪魔」の私たちへの攻撃の手綱は少しも緩まることはないだろうと思ったからです。止めに入った人たちには、「邪魔立てする者は、誰であろうと死ぬことになるよ」と言いました。女性と私たちの間の衝突は、「神」と「魔鬼」の霊の間の戦いだったのです」。呂迎春はこのように供述したのだが、その霊を見た人は他に誰もおらず、この供述を理解することもできなかった。警察も理解できなかった(The Beijing News 2014)。

マクドナルドの殺人事件の重要な点は、犠牲者の呉碩艶はグループの反対者ではなかつたことである。グループはマクドナルドに入店するまで彼女のことを知らなかつた。けれども電話番号を教えなかつたことが、超常的な意味で邪悪な行為、神自身に対する許しがたい罪、「神」と「悪魔」との間の最後の戦いが始まった兆候として捉えられた。

マクドナルド殺人事件は監視カメラだけでなく、来店客もひそかに撮影していた。事件の余波の中、中国の世論は道徳的に身の毛がよだつような感覚を覚え、店内の誰も対応せず、殺害を防がなかつたことにショックを受けた(例えば、Nancy のコメント参照)。暗殺者は武器を持っていなかつたし、張立冬を除き、4 人は女性で、1 人は子供だったため、他の来店客は制止できたかもしれない。他の来店客は、尋常ではないあまりにおぞましい光景を目にして、身体が硬直していたと思われる。

張立冬、娘の張帆と張航、息子の張舵、愛人の張巧聯、そして呂迎春という団体の全員が、2014 年 5 月 28 日に招遠市のマクドナルドに入店した。13 歳の張舵を

除き、全員が逮捕・投獄され、2014年8月21日に煙台中級人民法院で裁判にかけられた。2014年10月11日、張立冬と張帆には死刑、呂迎春には終身刑、張航には懲役10年、張巧聯には懲役7年の刑が宣告された。2015年2月2日、張立冬と張帆には死刑が執行された。

2014年8月21日の煙台中級人民法院、および被告らへのインタビューが行われた刑務所で、説明のつかない行為が見られた。張帆の妹の張航は宗教にはあまり関心がなく、事件全体について複雑な感情を抱いていると宣言した(The Beijing News 2014)。しかし彼女以外の被告全員が後悔している態度をまったく見せず、厳しい刑罰を回避するための行動を何も取らなかったのである。働き盛りで裕福であった男、張立冬も、同様の態度を見せていたことは特筆に値する。ただし張立冬は、事件の時までには失業していた、あるいは完全に「神々」に奉仕していたと宣言していた(CCTV 2014)。

呂迎春と張帆がまもなく地球を離れて天国に戻ると発表していたことで、これは2人の神の計画の一部であった、というのが一説として考えられるかもしれない。死刑執行は単に地球を離れるための方法であり、呂迎春は終身刑を言い渡されるよりも、張帆と共に死刑になった方がよかったと考えていたとも推測できる。結局、彼女らは「同じ魂を共有する2つの肉体」だったのだ。張立冬のインタビュー中に語った言葉に加えて、そのしぐさが真の信者によく見られる態度のように見えた(CCTV 2014 参照)。張立冬は単に、天国で神の化身である自身の娘に加わることを望んでいたのかもしれない。

結論

たとえ全能神教会が殺人に関与せず、呂迎春と張帆の団体が全能神教会の一部でなかったとしても、中国政府がマクドナルドの事件を用いて全能神教会に対する取締りを強化したのは明らかだ。

それに対して、全能神教会は、中国共産党が「サイコパス」を操って殺人を行い、それを全能神教会(と複数のキリスト家庭教会)への弾圧を正当化する口実にしたと非難し、「共産党は殺人者であり、真の罪人である」との声明を出した(Eastern Lighting 2015)。

一部の人権活動家も同様のコメントを残した。そのうちの一人、シン・シュウヤンは次のようにコメントしている。「山東省招遠市の殺人事件の後、共産党はこの事件を用いて全能神教会を包括的に弾圧した。教会の少なくとも1,500人の罪のない成員が逮捕されたと報じられている。共産党の法を執行するやり方は、法の支配を根底から覆すようなものだ。ではなぜ共産党は「カルト」を弾圧するキャンペーンを実施した

のだろうか。そこには隠れた動機があるはずだ。共産党の意図は、社会の危機を隠蔽し、世論の関心をそらすことにしかない。そのようにして、共産党は宗教団体に濡れ衣を着せたのだ」(Xin 2014。Guo 2014 にも類似のコメントがあるため、参照されたい)。共産党の動機は一樣には解釈できないかもしれないが、共産党が全能神教会への弾圧を正当化するために、この殺人事件を利用したことは疑いようがない。

2017年6月、後者は、2014年6月16日に中国中央防范和处理邪教問題弁公室(別名:中央610弁公室)の電話会議の内容を転記したとされる文書を複数の研究者にリークした。この会議では、全能神教会についても話し合われていた。会議では、「反抗的な性質を有し、欺瞞的な策を弄するカルトが提示する深刻な脅威を知らしめるために、「5月28日のマクドナルド殺人事件」を典型的な事件としてしっかりと頭に入れ」、「国外でこの殺人事件を強力に吹聴する」プロパガンダを展開することを推奨していた。2017年8月19日の時点で、私が数えたところ、全能神教会(別名:東方閃電)をマクドナルドの殺人事件と結びつける、メディアの記事は各言語合わせて約2万ページあった。この点を考えると、このプロパガンダはかなり成功したと言える。私たちはただ、研究者たちが2014年に招遠で起こった事件を正確に理解しようと真剣に取り組むことで、この悲劇に対して、主観を排した評価が行われるようになれば、と願うばかりである。

参考文献

- CCTV. 2014. “招远案杀人嫌疑犯采访全程-我感觉很好 全能神教的信徒” (招遠市殺人事件の犯人とのインタビュー全記録-全能神教会の信徒であることを心地よく感じる). May 31. Accessed April 9, 2019. <https://bit.ly/2U7Fgq6>.
- Chen, Lu. 2014. “Questions Raised Over Violent Killing in China McDonalds.” *The Epoch Times*. June 1. Accessed April 9, 2019. <https://bit.ly/2WYI6j3>.
- Dunn, Emily. 2015a. “Church of Almighty God / Eastern Lightning.” *World Religions and Spirituality Project*. February 19. Accessed August 19, 2017. <https://wrldrels.org/2016/10/08/church-of-almighty-god>.
- Dunn, Emily. 2015b. *Lightning from the East: Heterodoxy and Christianity in Contemporary China*. Leiden: Brill.
- Eastern Lightning. 2015. “An Extensive Exposure to the Sinister Intention of the Evil CCP’s High-profile Public Trial on the Psychopaths.” October 16. Accessed August 19, 2017. <https://bit.ly/2F9X8MT> [刊行時点でアクセス不可だが、類似のサイトに <https://bit.ly/2TRRDe5>].

- Guo, Baosheng. 2014. “警惕以“邪教”名义大规模迫害基督教”(「邪教」の名のもとにキリスト教を大規模に迫害することへの警鐘). HRIC (Human Rights in China) *Biweekly* 133 (June 13–June 26). Accessed September 3, 2017. <http://biweeklyarchive.hrichina.org/article/18374.html>.
- “Nancy.” 2014. “Six People Killed the Woman in McDonald’s, May 28th, China.” (5月28日、中国においてマクドナルドで6人が女性を殺害). CNN iReport. June 1. Accessed August 19, 2017. <http://ireport.cnn.com/docs/DOC-1139281> [刊行時点でアクセス不可].
- Phoenix Satellite TV. 2014. “社会能见度 审判“全能神”(社会の注目を集めた全能神に対する審判). August 21. Accessed April 9, 2019. <https://bit.ly/2XTXq1H>.
- ter Haar, Baarend J. 1992. *The White Lotus Teachings in Chinese Religious History*. Leiden: Brill.
- The Beijing News. 2014. “山东招远血案被告自白:我就是神”(山東招遠殺人事件の被告の告白:私自身が神だ). The Beijing News. August 23. Compiled by Yang Feng. Accessed August 22, 2018. <https://bit.ly/2DSdtWe>.
- Wang, Duruo. 2014. “内部消息:麦当劳内打死美女暴徒 是公安局长孙宝东帮凶”(内部情報:マクドナルドにおける美女の暴行殺人を犯した暴徒 公安局長孫宝東の声明) Aboluowang.com. June 1. Accessed August 22, 2017. <https://bit.ly/2TTjvLX>.
- Xiao, Hui and Zhang Yongsheng. (Han Xuefeng, Zhong Yuhao, Sun Beibe と共著. 2014. “一个“全能神教”家庭的发展史(ある「全能神」教家庭の発展史).” The Beijing News. August 22. Accessed August 19, 2017. <https://bit.ly/2DSMuty>.
- Xin, Shuyan. 2014. “辛树言:中国当局何曾尊重过宗教信仰自由(中国当局は信教の自由を尊重しない).” *Biweekly* 134 (June 27–July 10). Accessed September 3, 2017. <https://bit.ly/2OW1pH5>.